

第2回 木の文化を具体化する推進会議 次第

日時 平成26年2月6日（木）
午後1時～午後3時
場所 京都ガーデンパレス
会議室「桜」

1 あいさつ

2 議題

(1) 第1回会議のまとめ

(2) 本市の森林・林業の普及・啓発の取組

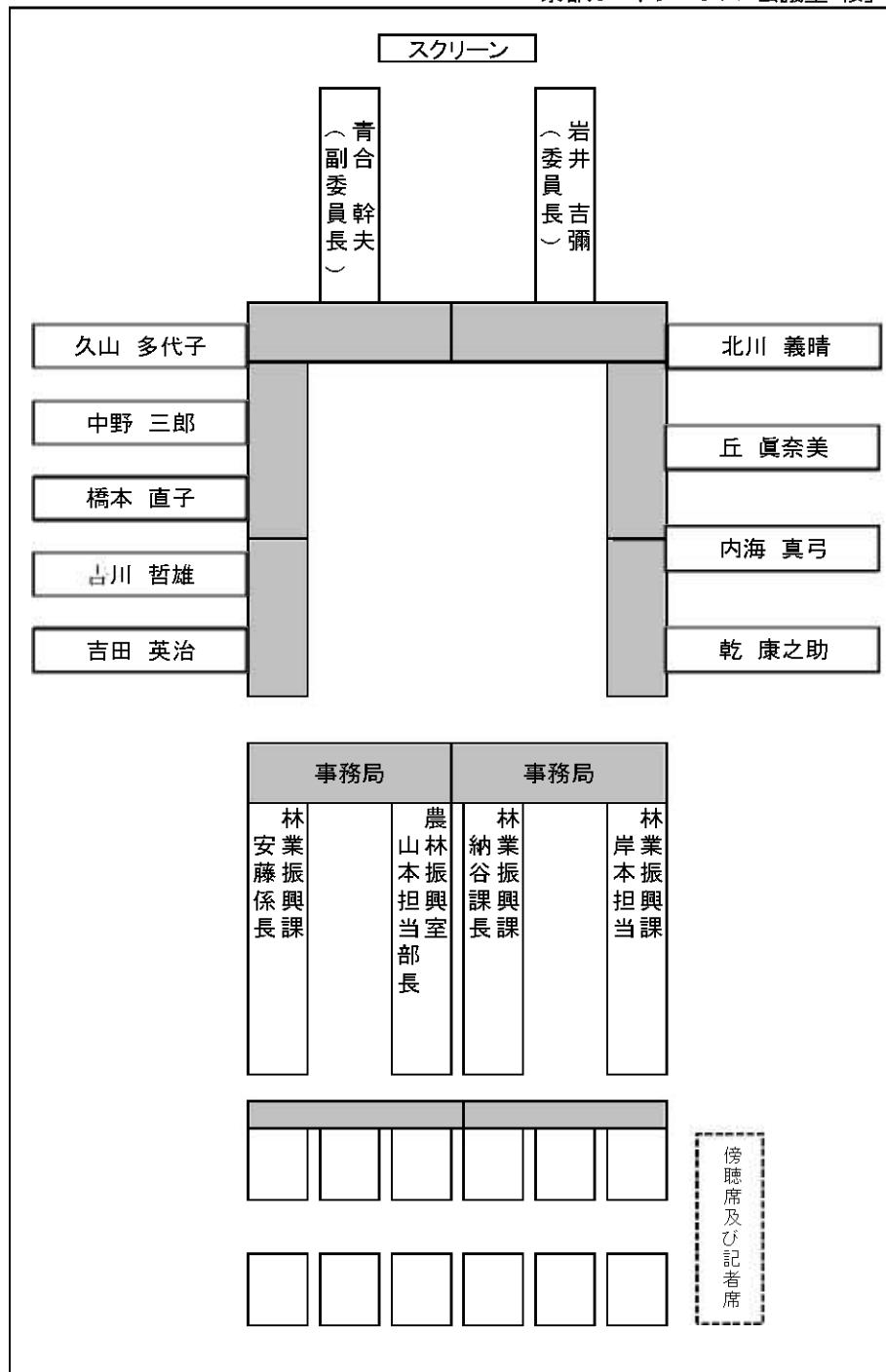
(3) 他都市の市民参加の事例紹介

(4) 本市の市民参加の取組

(5) その他

第2回木の文化を具体化する推進会議 配席図(敬称略)

京都ガーデンパレス 会議室「桜」



第2回木の文化を具体化する推進会議 委員名簿 (敬称略)

(五十音順)

	氏 名	職名等
1	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務
2	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長
3	岩井 吉彌	元 京都大学大学院農学研究科 教授
4	内海 真弓	市民公募委員
5	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表
6	北川 義晴	京北森林組合 代表理事組合長
7	久山 多代子	森林インストラクター
8	中野 三郎	公益財団法人京都市森林文化協会理事長
9	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
10	吉川 哲雄	京の山舎人工房 モデル工房「木輪舎」 代表
11	吉田 英治	京都市森林組合 代表理事組合長

以上 11名

第2回木の文化を具体化する推進会議

平成26年2月6日(木)
ガーデンパレス京都

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

本日の発表の流れ

第1回会議のまとめ

↓

本市のとりくみ

↓

本市のできること

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

第1回木の文化を具体化する推進会議について

会議の目的
京の木の文化という視点から、山づくり・まちづくりを進める計画を具体的に検討・推進する

平成24年度までの会議では、川下側(木材の需要拡大)を中心議論
今年度から川上側(森づくり)に議論の中心を移行

第1回会議では、本市の森林・林業の抱える課題について川上側の視点から議論

↓

森の果たしている効果が、市民に理解されておらずPRが不足している。
行政の森林・林業関係の財源の確保が大事。そのためにも、市民への啓蒙をしっかりとすべき。
歴史・文化・観光などの切り口から市民に訴えることが大切。
木を使っている場所での「見える化」をして、アピールすべきである。
教育に森林・林業のことを取り入れることが大事。

↓

森の価値を市民にもっとアピールを！

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

本市の森林・林業の普及啓発に係る取組

木材需要拡大に係る普及啓発

- 京の山人工房事業
- 市内産木材の供給対策への補助
- 木育の取組
- 木質ペレットの普及拡大
- 公共建築物等への積極的な木材の利用

森づくりに係る普及啓発

- 伝統文化の森推進協議会の活動
- 四季・彩りの森復活プロジェクト
- 京都みどりプロジェクト
- モデルフォレスト

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

木材需要拡大に係る普及啓発

- 京の山 人工房事業
- 市内産木材の供給対策への補助
- 木育等の取組
- 木質ペレットの普及拡大
- 公共建築物等への積極的な木材の利用

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

木材需要拡大に係る普及啓発①

京の山 人工房事業

循環型社会のライフスタイルの一つとして「森林や里山との共生・木のある暮らし」を提案、普及を図る事業です。市内に10箇所づつ設置しているモデル工房を情報発信拠点として、リフォームモデルの展示や学習会の開催、森林体験活動等を通じて森林のファンを増やすことにより、京都市の地域産材みやこ材木の需要拡大や森林の健全化、林業の活性化を目指しています。

■木材原木市場
■製材工場
■北山丸太の乗り
■木材供給
■森林活動フィールド
■森林体験活動等へ参加
■森林体験活動
■木工教室
■モデル工房
■新たな京の山と森林のファン獲得へ
■北山ビニキやスキンを現代風デザインへとします
都市の木材活用が元気な山と森林をつくります。

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳 website](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

■里山交流会
■親子木工教室

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

市内産木材の供給対策への補助

「みやこ桧木」を提供する事業(無償提供分は最大25万円まで)を実施しています。

対象は、市民が所有する一般住宅及び店舗等の新築及びリフォームです。

＜主な条件＞

北山丸太製品を無償提供金額の20%以上使用していただくこと。

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

木育等の取組

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

木質ペレットの普及拡大

森林資源の利用促進と温室効果ガスの削減を目的に、環境省の補助金を活用し、林業関係者による、生産能力3,500t/シ・年間クラスのペレット製造施設が建設されました(平成22年3月に竣工)。

木質ペレットとは...
 ① 木材を粉碎・圧縮して形成される燃料
 ② 再生可能エネルギーとして主目を集めている。
 ③ 木材(C材)の有効利用につながり、既刊材は広く利用されている(日本のおよそ100倍)
 ④ 「カーボンニュートラル」のため、大気中のCO₂の増加をさせない。
 ⑤ 小型で品質が安定しているため、他の固形燃料よりも扱いやすい。

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

木質ペレットの普及拡大②

■木質ペレットストーブ
導入台数159台うち補助台数137台(H21～H24)

■木質ペレットボイラー、ヒーター
導入台数12台うち補助台数8台(H22～H24)

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

木材需要拡大に係る普及啓発④

公共建築物等への積極的な木材の利用

平成25年9月
京都市公共建築物等に係る木材利用基本方針の策定

バスの駅の整備にみやこ桧木を使用

学校図書館にみやこ桧木を用いた書架、机、椅子を導入

京都市産業観光局農林振興室材業振興課 [to city廳の窓口セクション](#)

森づくりに係る普及啓発

- ・伝統文化の森推進協議会の活動
- ・四季・彩りの森復活プロジェクト
- ・京都みどりプロジェクト
- ・モデルフォレスト

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

森づくりに係る普及啓発①

京都伝統文化の森推進協議会の活動

目的 森づくりを通じて、自然との共生を基本とする日本の文化を再生し、全国に発信する

活動の内容

- ・東山の国有林(「東山風景林」約190ha)と協定を締結し、協議会の趣旨に賛同するお寺や地元団体と協力し、市民参画による森づくりを進める
- ・景観と森林生態系の保全のための森林整備
- ・東山をはじめとする京都三山の文化的価値の発信普及

設立日 平成19年12月26日

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

森づくりに係る普及啓発②

四季・彩りの森復活プロジェクト

京都市三山森林景観保全・再生ガイドラインの実践により古都の森林景観を守る

目的 山紫水明の京都いい三山の森を復活する

成果(2012)

- 景觀・防災上重要な区域のマツ枯れ・ナラ枯れ跡地の復旧
- 生態系に配慮した森づくりと森林資源の持続的利用

今後

- ◆ 森林所有者情報の調査
- ◆ 管理道の設計
- ◆ 毎年2ha以上の施業の実施
- ◆ 普及啓発活動の実施

東山のナラ枯れ **早春の森(イメージ)** **鍾乳の森(イメージ)**

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

森づくりに係る普及啓発③

京都みどりプロジェクト

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

森づくりに係る普及啓発④

モデルフォレストの活動

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

これからの取り組み

既存事業を粘り強く継続し、見直しや充実を図る。

木材の需要拡大

- ・公共のみやこ材木の使用現場にPR用の表示材の設置
- ・民間住宅の新築やリフォームなどにみやこ材木を利用する工事現場へのぼりの設置

森づくり

- ・既存の各種取組みを連携させる仕組みづくりとコーディネーター役の育成
- 森林組合 → 林業のプロの育成、人工林を中心とした森林整備
- 京都市森林文化協会 → 市民と協働による森づくり、森林文化の普及啓発

京都市産業観光局農林振興室林業振興課 [http://www.kyoto-u.ac.jp/seisaku/](#)

六甲山戦備整林

「都市山」六甲山と人の暮らしどとの新たな関わりづくり

平成24年4月
神戸市

立夏



平成24年4月発行
神戸市 緑設画公園部野菜六甲山整備室
〒658-0570 神戸市中央区加納町6丁目6番1号 神戸市役所2号館3階
電話:078-322-6524 Fax:078-322-6097
E-mail: m-roku@city.kobe.lg.jp
神戸市立緑植物園第24年度第3号(底刷印葉物規格B-1版)

City of Design
KOBE
Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

R70

リバタス株式会社
COOL DESIGN
2013年4月発行

六甲山森林整備戦略～次の百年を目指して～

六甲山で植林がはじめられてから110年を迎えました。都市の中心にある六甲山は、古くから人々に親しまれてきましたが、現在では、自然保護や観光資源として重要な位置を占めています。

では、樹木も大きく成長しましたが、過去に同じ時期に植林されたため、樹種や構成種が乏しいまま世代交代ができないことがあります。また、十分な手入れがされず、病害虫が進む所も見られ、土砂災害の発生、繁殖の悪化、害虫害の発生などが懸念されます。

いま、六甲山と人との関わりを結び直し、新たな都市山・里山として再生することが求められます。このため神戸市では、神戸の貴重な財産である六甲山を、美しく健全な状態で次世代にも引き継いでいくための長期的なプランとして、「六甲山森林整備戦略」を策定しました。

目的的戦略的整備林森

「六甲山」の「恵み」を「育てる」・「活かす」・「楽しむ」仕組みづくり

- 市民の暮らしと六甲山の新しい関係を再構築する森林整備の方向性を確立します。
 - 森林の持続可能な管理システムをつくりだすため、先導的な森林整備ソーン（＝戦略的ゾーン）を設定します。
 - 六甲山の新しい価値を創造する技術開発や仕組みづくりに取り組みます。

三

六甲山ってどんな山?

▲ 仁川（現在の韓国）住民事務所 昭和36年秋
元駐日公使 明治36年秋

六甲山は、古くから人々の心に豊かな精神をもたらす場所として親しまれてきました。特に近いところから、山に近づくと、心が穏やかになります。また、山には多くの植物や動物が生息しており、自然環境が豊富です。また、山には多くの歴史的・文化的な遺跡や、名勝古跡があります。これらの歴史的・文化的な背景から、山には多くの人にとって、心の休息や、心の癒しの場所として親しまれています。

The diagram illustrates the relationship between forest structure and tree species diversity over time. It features two panels: the top panel shows a dense forest with many different tree species, labeled '1974' and '1974年から2009年までの35年間で、樹木の種類が減少した。高木が増加し、下層の樹木種類が減少し、常緑広葉樹の占める割合が増加した。'; the bottom panel shows a simplified forest with fewer species, labeled '2009' and '森林の構造が単純化された'.



方略的基本的な考え方

市民・企業・行政等の協働による
六甲山の森林を支える仕組みづくり

- 多様な主体との協働による森林の育成・活用
 - 戦略的ソーニングによる森林整備の推進
 - 森の恵みに対する新しい価値の創造
 - 新たな仕組みや技術の導入による持続可能な森づくり
 - 市民や企業等が支える仕組みづくり

六月の森林の渓谷

多様な植物や生きものが育まれ、多くの恵みをもたらし、
美しく、活力あふれ、街つながる安定した森林
【六四】

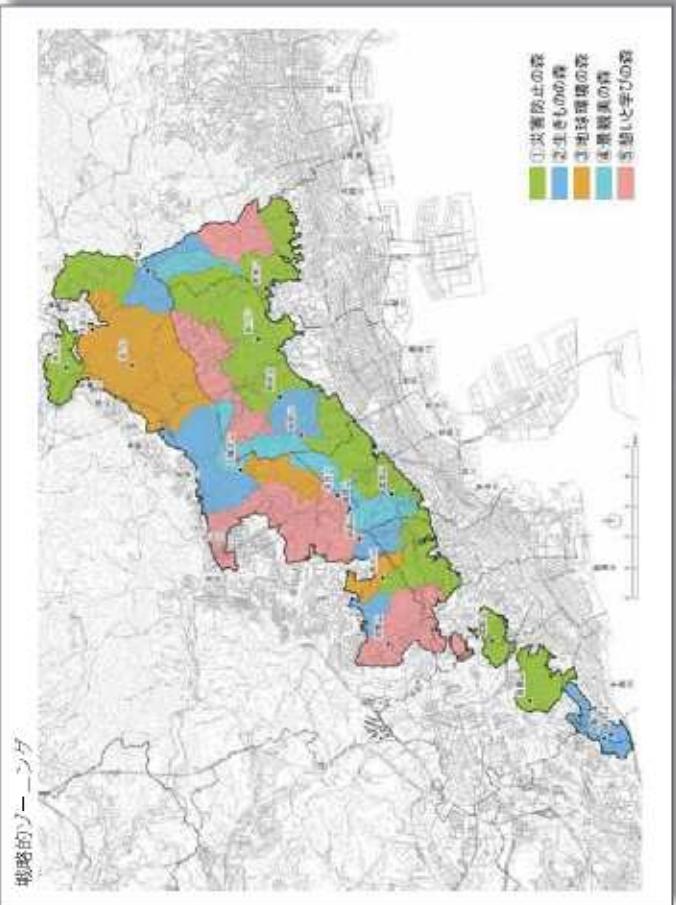
三

現在では、樹木も大きく成長しましたが、過去に同じ時期に植林されたため、樹種や構成が同じまま世代交代ができない所があります。また、十分な手入れがされずに荒廃が進む所も見られ、土砂災害の発生、攀根の悪化、病虫害の発生などが懸念されています。

いま、六甲山と人との関わりを結び直し、新たな都市山・里山として再生することが求められています。このため神戸市では、神戸の貴重な財産である六甲山を、美しく健全な形態で次世代にも引き継いでいくための長期的なプランとして、「六甲山森林整備戦略」を策定しました。

六甲山の森林の将来像を実現するためには、森林の持つ多様な機能を十分に發揮させる施策が求められます。

そこで、六甲山の森林に求められる機能ごとに、六甲山全体を詳細に分析評価し、戦略的ゾーニング（「森林の持続的な整備・管理を進めるとともに、先導的森林整備ゾーン＝戦略的ゾーン」の設定）を行い、ゾーンごとの目標像や森林整備方針を定めました。



①災害防止の森

災害防止を目的とした森林整備を進めるゾーン

「多様な林相・樹種が混生する土砂災害等の防止効果が高い森林」

・地表面が岩木・下草などに覆われ、表面食防効果

・水流から養分が無い森林

・多様な林相・樹種の組み合わせによって強度した根系の土保持効力による表面食防効果・川水緩和効果が高い森林



災害防止
森林

監視点
→

監視用



生きもの
森林

監視点
→

監視用



地球環
境の森

監視点
→

監視用



景観美
の森

監視点
→

監視用



憩いと
学びの森

監視点
→

監視用



多様な
レクリエー
ーションや
新たな利
用が展開す
る森林

監視点
→

監視用

六甲山の森林の将来像を実現するためには、森林の持つ多様な機能を十分に發揮させる施策が求められます。

そこで、六甲山の森林に求められる機能ごとに、六甲山全体を詳細に分析評価し、戦略的ゾーニング（「森林の持続的な整備・管理を進めるとともに、先導的森林整備ゾーン＝戦略的ゾーン」の設定）を行い、ゾーンごとの目標像や森林整備方針を定めました。

②生きものの森 生物多様性保全をして場に恵むための森林整備を進めるゾーン

「丘陵園の骨格的生態系ネットワークの一部を成す森林」

・ノナ林、シイ・カシ林等の自然林や、貴重森林などが適切に保全されている森林

・間伐などの森林整備によって、多様な留植により構成された下層植物の生長した、様々な生物が生息する森林

・六甲山系と周辺地域を含めた生態系ネットワークが形成されている森林



生きもの
森林

監視点
→

監視用



整備前
→

監視点
→

監視用



整備後
→

監視点
→

監視用

③地球環境の森 二酸化炭素の吸収能を高めるための森林整備を進めるゾーン

「二酸化炭素の吸収効果が高く、エネルギー等として活用されている森林」

・間伐や整備等により若い幼木が生長し、二酸化炭素吸収能が高く、ヒートアイランド現象など市街地の気候緩和効果に貢献する森林

・間伐や整備等の森林が木質系バイオマスエネルギー等として有効に活用されている森林



災害防止
森林

監視点
→

監視用



整備前
→

監視点
→

監視用



整備後
→

監視点
→

監視用

④景観美の森 施設やハイキング道周辺の景観整備を進めるゾーン

「都市景観のシンボルとなり、四季を感じる多様で美しい森林」

・新緑・紅葉・他の美しい広葉樹など、多様な物語により生まれされるデザイン都市・地元を象徴する美しい森林

・開拓や下刈りなどの適切な管理により、林床の野生草などが健健できる美しい森林

・マンドレ、ナラ等に刈り、適切な病除が実施され葉被が保全されている森林



生きもの
森林

監視点
→

監視用



整備前
→

監視点
→

監視用



整備後
→

監視点
→

監視用

⑤憩いと学びの森 森林体験や環境学習の場として各種モーテル的な整備を進めるゾーン

「多様なレクリエーションや新たな利用が展開する森林」

・沿岸公園等のレクリエーション利用の場としての歴史古
事記などができるでできる森林

・遊歩道等のハイキング等からならぬ多くの市民
の健康づくりにも資する森林

・六甲山系の自然や歴史、文化などを学べる施設を活用
し、森林体験やエコツアーやなどの多様なプログラムが
展開できる森林



災害防止
森林

監視点
→

監視用



整備前
→

監視点
→

監視用



整備後
→

監視点
→

監視用

⑥戦略的ゾーニングの流れ

* 戰略的ゾーニングの流れ

最初の複数の段階で始めた丸太林の人工林は
その後、保育・育成・レクリエーション等、それまでの新規
活性を用いて計画しました。
この結果ももとに、六甲山の森林の見出をふまえたう
えで、整備方針は分析を行いました。今後、六甲山森林の
森林の保全をめざす方針を定めました。



戦略的ゾーニング

森林

監視用

総合分析イメージ

戦略的ゾーンの設定と六甲山の将来像実現にむけて

本戦略の基本的な考え方である「多様な主体との協働による森林の育成、活用」、「森の恵みに対する新しい価値の創造」、「新たな仕組みや技術の導入による持続可能な森づくり」、「市民や企業が支える仕組みづくり」を実現するための取組みを、一体的に進めます。

森林整備に関するマネジメントを組織化します

(仮称)「六甲山森林マネジメント共同体」(RMICHIKAKU Forest Management Corporation)を組織化し、多様な主体による競合マネジメント体制を構築します。

多様な主体からの公的負担を有効に活用・管理することでともに、本市至森林整備を担う人材育成も推進します。

次世代の森林整備を担う人材を育成します

林业従事者だけでなく農園・土木分野も含め、森林整備を専門的に扱う人材を育成します。

公園や市有林等において、森林整備に携わる市民や活動団体への学習機会を提供します。

福井分野などとの連携により、地域雇用への貢献を図ります。

多様な主体と連携した、森林整備を活性化する。

環境に配慮した基盤整備を行います

- 森林管理以外にも、災害時の避難やハイキングなど、多様な利用を促進します。
- 地形や地質に配慮したルート設定を行い、斜面崩壊等の災害防止に努めます。

将来にわたって親しみ、活用できる森をみんなでつくります

森林整備費用を確保する仕組みをつくります

市民等の十分な理解のもと、森林の公益的機能を増進させる森林整備について、その恩恵を受ける多様な主体による費用負担の仕組みを検討します。(森林資源を活用した商品の販売、チップ・ペレットなどのバイオマス燃焼炉の整備、六甲山ブランドの販売など)

民間資金を活用でき、かつ運営の透明性が図れる基金運営や、公益信託を利用したファンドの確立に向けた検討を進めます。

費用を収録管に還元します

市民参画による森づくりをさらに進めます

六甲山の価値や魅力を広くPRするとともに、森林整備に関する情報発信に努めます。市民のみなさんが森に親しみ、森づくりに参加できる機会をつくります。

みんなで取組みます



準備期間

- 市有林等公有林におけるモデル的森林整備
- 森林整備
- 私有林における森林整備に向けた新たな取組み方策の検討
- 六甲山における新たな森林整備組織体制の検討
- 六甲山における新たな森林整備組織体制の設立準備
- 六甲山ブランド形成に向けた検討・実証
- 六甲山ブランドの展開

短期計画

- 公有林における特徴的な森林整備
- 私有林における新たな取組み方策の定着
- 六甲山における新たな森林整備組織体制の検討立案準備
- 六甲山における新たな森林整備組織体制の深化
- 六甲山ブランドの多様化・深化

長期計画

- 次世代の森林整備を活性化する。
- 森林資源を活用します
- 利用を促進します。
- 地形や地質に配慮したルート設定を行い、斜面崩壊等の災害防止に努めます。
- 自然環境の改変は必要最小限にとどめ、地域の環境や生態系に配慮した工法を導入します。

森林の恵みを多角的・循環的に利活用します

- 森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 輸送、木材等の直接利用できる森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 大学等研究機関や市内立地企業と連携し、新たな木質素材利用の方法を検討します。

森林の恵みと森林資源を活性化する。

森林の恵みを多角的・循環的に利活用します

- 森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 輸送、木材等の直接利用できる森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 大学等研究機関や市内立地企業と連携し、新たな木質素材利用の方法を検討します。

森林の恵みと森林資源を活性化する。

森林の恵みを多角的・循環的に利活用します

- 森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 輸送、木材等の直接利用できる森林資源の効率的な活用方法を検討します。
- 大学等研究機関や市内立地企業と連携し、新たな木質素材利用の方法を検討します。

2050年

2025年

2015年

○ 京都市における森づくり

① 人工林を中心とした京都市北部林業地域における森づくり

② 天然林を中心とした市街地周辺三山における森づくり

○ 市民との協働による森づくり

京都市(周辺三山)における取組について

① 平成19年
「京都伝統文化の森推進協議会」設立

② 平成23年
「四季・彩りの森復活プロジェクト」開始

③ 平成24年
「京都みどりプロジェクト」開始

京都伝統文化の森推進協議会

● 設立趣旨

「京都の三山の森林景観を守り育てよう」を合言葉に、平成19年12月、林野庁・京都市・**支援協力者**が協力して、設立。

● 支援協力者(団体)

【センター】青蓮院、清水寺、高台寺、祇園商店街振興組合
【活動協力団体】地域の自治連合会、ハイアットリージェンシー京都、ウエスティン都ホテル、京都室町ライオンズクラブなど

京都伝統文化の森推進協議会の構成員①

役職	区分	氏名	現職等
顧問	経済界	立石 義雄	京都商工會議所 会頭
顧問	行政	前川 奏一郎	近畿中国森林管理局長
	行政	門川 大作	京都市長
相談役	行政	増田 錦昭	京都大阪森林管理事務所長
役職	区分	氏名	現職等
会長	学識者 (文化)	山折 啓雄	宗教学者
副会長	学識者 (新幹)	森本 幸裕	京都学園大学 教授
副会長	学識者 (文化)	綿田 東二	京都大学ニコロの未来研究センター 教授
理事	学識者 (新幹)	田中 和博	京都府立大学大学院 教授
理事	経済界	福永 晃三	株式会社 フクナガ 代表取締役 会長
監事	行政	白須 正	京都市 / 葉光局長
監事	経済界	高橋 一浩	有限責任監査法人トーマツ パートナー 公認会計士

4

京都伝統文化の森推進協議会の構成員②

役職	区分	氏名	現職等
委員	文化団体	菅原 信海	公益財團法人 京都古文化保存協会 理事長
	文化団体	田中 安比呂	京都府文化財等所有者連絡協議会 副会長
	文化団体	高井 和大	京都古事の森育成協議会 会長
	経済界	金丸 勝彦	JR東海 京都・奈良・近江文化情報事務局 事務局長
	経済界	河田 邦博	J.R西日本 京都交流推進委員会 事務局長
	経済界	塙山 等	京阪電気鉄道株式会社 経営統括室 経営戦略担当部長
	経済界	野間 光輪子	京都市市政改革懇談会 委員
サポート	東伏見 淳晃	青蓮院門主	
サポート	森 清範	清水寺 貴主	
サポート	小堀 泰義	高台寺 住職	
サポート	北村 光生	祇園商店街振興組合 理事長	
学識者 (森林)	吉永 秀一郎	独立行政法人 森林総合研究所関西支所長	

5

京都伝統文化の森推進協議会の構成員③

役職	区分	氏名	現職等
文化的 機運・信 牛鬥委員	学識者 (歴史)	丘 崑奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表
	学識者 (芸術)	大西 宏志	京都造形芸術大学 教授
	学識者 (文化財)	柳川 敏夫	京都博物館文化財研究所 次長
	学識者 (文学)	河角 龍典	立命館大学文学部 准教授
	学識者 (芸術)	近藤 高弘	陶芸・美術作家
	学識者 (文化)	高橋 義人	平安女学院大学国際観光学部 特任教授
	学識者 (経済)	原田 審一	NPO法人シンクタンク京都自然史研究所 特別研究員
	学識者 (文化)	日置 弘一郎	京都大学経済学部 教授
	学識者 (文化)	吉岡 洋	京都大学文学部 教授

6

京都伝統文化の森推進協議会の構成員④

役職	区分	氏名	現職等
森林整備	学識者(森林)	安藤 信	京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授
	学識者(森林)	黒田 康子	神戸大学大学院教授
景観・策 ・門委員	学識者(森林)	高田 研一	NPO法人 森林再生支援センター 常務理事
	学識者(教育)	高桑 遼	京都女子大学
	学識者(森林)	高原 光	京都府立大学大学院 教授

事務局: 公益財団法人京都市森林文化協会、京都市林業振興課

7

○京都伝統文化の森推進協議会の活動内容

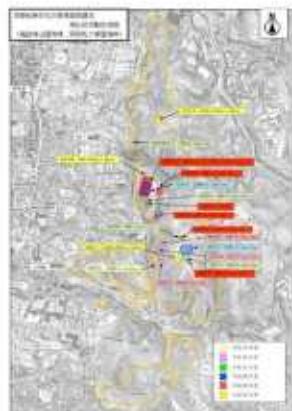
- ① 森林整備 -1(プロによる作業)
増えすぎたシイの木を切って、四季の彩りの感じられる景観への誘導を行っています。



8

森林整備・景観対策事業

東山風景林 林相改善事業



9

森林整備・景観対策事業

平成24年度東山風景林林相改善事業

- ◆ 計画立案及び監理業務: NPO法人森林再生支援センター 974,610円
- ◆ 改善事業の実施: 清水山地区 植彌加藤造園株式会社 3,465,000円
将軍塚地区 有限会社山城園 2,593,500円
- ◆ モニタリング: 国立大学法人京都大学 525,000円



C地区

10

森林整備・景観対策事業

平成24年度東山風景林林相改善事業

<東山A地区>



11

○京都伝統文化の森推進協議会の活動内容

- ② 森林整備 -2(ボランティアによる作業)
毎年、協議会の趣旨に賛同するメンバーが集まって、森の手入れをしています。



毎年、ボランティアメンバー40名
ほどで清水山の山頂のうっそう
とした森に手を入れ続け4年。

12

○京都伝統文化の森推進協議会の活動内容

③啓発活動－1(現地を見る)
京都の森について学んでもらおうと、親子を対象にした「京都の森を守ろう 清水の舞台裏を探検」を実施(2013.9.28)

お寺の修復現場の見学。屋根には桧皮(ひわだ)が使われます。

森林インストラクターから木や京都の森の現状についての説明をうけます。

京都の寺社の屋根に使われる桧皮剥(ひわだは)ぎの実演!

13

○京都伝統文化の森推進協議会の活動内容

④啓発活動－2(学ぶ)
公開シンポジウム「森が育む文化 森を育む文化～森との歴史からひもとく～(2012.11.23)」等のシンポジウムやセミナーを開催し、人と森とのかかわりの大切さ等を広く啓発しています。

協議会では、このような活動を通じて、京都三山の森林が美しい森になるように、市民・地域関係者・企業・行政等がひとつになって、大きな支援の環を結んでいます！

14

文化的価値発信事業

第4回公開セミナー
「京のみやこの神性を災害から読み解く」

開催日:平成24年6月7日(木) 於:京都大学稲盛財団記念館
参加者:43名
講演者:原田憲一委員、梶川敏夫委員
中川要之助氏(応用自然史研究所「人と大地」室長)
コーディネーター:鎌田東二専門委員長

15

文化的価値発信事業

第5回公開セミナー
「生と死の信仰空間、京の山」

開催日:平成24年9月27日(木) 於:京都大学稲盛財団記念館
参加者:131名
講演者:山折哲雄会長、丘真奈美委員、高田研一委員
コーディネーター:原田憲一委員

16

文化的価値発信事業

「東山にある山寺・山城跡現地視察会」

開催日:平成24年11月12日(月) 於:左京区鹿ヶ谷如意ヶ嶽付近の山林
参加者:16名
案 内:梶川敏夫委員

17

文化的価値発信事業

第6回公開セミナー
「森と人、森と街をつなぐ京都のキャラクター」

開催日:平成25年2月28日(木) 於:京都大学稲盛財団記念館
参加者:58名
特別ゲスト:尾池和夫氏(京都造形芸術大学 学長)
講 演:鎌田東二専門委員長、大西宏志委員、
関本徹夫氏(京都造形芸術大学 教授)

18

文化的価値発信事業

「協議会PRキャラクターの活用」



焼焼「きょうだらぼっち」 落雁「くーりん」

一昨年、決定した協議会キャラクター「ぐーりん」と「京だらぼっち」を俵屋吉富さんの協力のもと、和菓子の製作及び活用を行いました。

19

森林整備・景観対策事業

**公開シンポジウム「森が育む文化、森を育む文化」
～森との歴史からひもとく～**



開催日: 平成24年11月23日(金・祝) 於: 東山区総合庁舎
参加者: 82名
講 演: 高原光 委員、安藤 信 委員、高田研一 委員、外山武比古 相談役
吉野浩樹 氏(NPO法人森林再生支援センター)

20

合同事業

協議会ホームページの運営



21

合同事業

「水都おおさか森林(もり)の市2012」



開催日: 平成24年10月7日(日) 於: 近畿中国森林管理局周辺(大阪市)
来場者: 約350名
内 容: パネルの展示、クイズ、木工教室の実施。

22

合同事業

「第12回 東山クリーン作戦」



開催日: 平成24年10月14日(日) 於: 東山山頂公園周辺
参加者: 47名
内 容: 東山山頂公園とその周辺、東山ドライブウェイ沿いの山中を清掃。

23

合同事業

**植樹イベント
「守ろう東山の景観を。取り組もう植樹と森林の育成」**



開催日: 平成24年10月27日(土) 於: 左京区鹿ヶ谷地区周辺の森林
参加者: 98名
内 容: 京都洛東ロータリークラブ主催イベント。
高田研一委員の指導のもと、ナラ枯れ被害跡地への植樹と除伐を行った。

24

合同事業

「開晴小学校森林学習」への支援



開催日:平成24年11月19日(月), 11月22日(木) 於:開晴小学校
対象者:約90名
内 容:小学4年生を対象に「ナラ枯れ」及び「協議会活動」について
森林学習を実施。高桑進委員及び事務局職員が講義を行いました。

25

合同事業

**第3回薪割イベント(12月4日, 5日, 6日, 8日)
「京都の森を守ろう薪割&ウォーク」(12月8日)**



開催日:平成24年12月4日(火)~6日(木), 8日(土) 於:東山風景林
参加者:335名(4日間)
内 容:4日間で1200束の薪を作成。8日(土)は一般市民も参加した薪割
体験のできる森林体験ウォークも開催した。

26

合同事業

「京都の森を未来へ 第1回 四季・彩りの森づくり」



開催日:平成25年3月2日(土) 於:左京区鹿ヶ谷地区周辺の森林
参加者:40名
内 容:京都市が取り組んでいる「四季・彩りの森復活プロジェクト」植樹
イベントに協力。高田研一委員指導のもと、地域性苗木を植栽した。

27

合同事業

**京の川の恵みを活かす会
「水辺の森づくりワークショップ」への協力**



開催日:平成25年3月23日(土) 於:貴船川周辺
参加者:約30名
内 容:午前中は勉強会、午後からは生物多様性に優れた景観的にも
美しい石積みの積み方の実習。

28

今後の課題

- ① 森づくりリーダーとプロの技術者の養成
- ② 地域及び主体間の連携
- ③ 森づくりに必要な経費の確保
- ④ 更なる市民意識の向上

29

平成26年度の検討内容

- 次のステップとして、深刻な状況にある京都市北部林業地域を中心とした経済林における森づくりについて、考えていきたい。
- 経済林における森づくりを行う主体は、森林組合をはじめとする林業関係者である。
- 市街地周辺の非経済林の森づくりとは、違った視点が必要である。

30

木の文化を具体化する推進会議開催要綱

平成22年7月20日制定

平成23年8月15日改正

平成25年8月28日改正

(設置)

第1条 京の木の文化という視点から、山づくり・まちづくりを進める計画を具体的に検討・推進するため、木の文化を具体化する推進会議（以下「会議」という。）を開催する。

(構成)

第2条 会議は、委員12名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験を有する者、林業関係団体の長、市民活動団体、木材取扱業及び建築関係者等から、市長が選任する。

3 会議に委員長及び副委員長を置く。

4 委員長及び副委員長は、委員のうちから市長が指名する。

5 委員長は、会議を代表し、会務を総理する。

6 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代理する。

(任期)

第3条 委員の任期は、選任された日から翌年3月31日までとする。

2 委員は、再任されることができる。

(活動)

第4条 会議は、次の各号に掲げる活動を行うものとする。

(1) 別に設置する検討会議で作成された活動案に関する検討

(2) 京の森林づくり、地域林業及び森林・林業関連業界の活性化を図るための包括的な組織の構築等に向けた検討

(3) 市民への普及啓発等その他必要と思われる活動

(会議)

第5条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、意見の陳述、説明その他の必要な協力を求めることができる。

(事務局)

第6条 会議の事務を処理するため、産業観光局農林振興室林業振興課に事務局を置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(経過措置)

2 第5条第1項の規定にかかわらず、最初の会議は市長が招集する。

附 則

この要綱は、決定の日から施行する。

附 則

この要綱は、決定の日から施行する。

平成25年度第1回木の文化を具体化する推進会議 摘録

◆ 日時：平成25年10月31日（木） 10:00～12:00

◆ 場所：京都ガーデンパレス 「桜」

◆ 出席者：以下参照

区分	名前（敬称略）	所属
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長
	吉田 英治	京都市森林組合代表理事組合長
	岩井 吉彌	元 京都大学大学院農学研究科 教授
	北川 義晴	京北森林組合代表理事組合長
	久山 多代子	森林インストラクター
	丘 真奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表
	中野 三郎	公益財団法人京都市森林文化協会理事長
	橋本 直子	(株) HIBANA 代表取締役
	吉川 哲雄	京の山舎人工房 モデル工房「木輪舎」 代表
事務局	内海 真弓	市民公募委員
	山本担当部長	京都市農林振興室
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課
	安藤係長	京都市農林振興室林業振興課
	三井担当	京都市農林振興室林業振興課
	岸本担当	京都市農林振興室林業振興課

欠席

◆ 当日資料：以下参照

資料 No.	資料名
	次第
	配席図
	出席者名簿
資料 1	木の文化を具体化する推進会議開催要綱
資料 2	木の文化を具体化する取組の進ちょく状況について
資料 3	本市の森林の現状と課題について
参考資料－1	地域産材ストック情報システム
参考資料－2	京都市公共建築物等における木材利用基本方針
参考資料－3	京都三山の危機（京都伝統文化の森推進協議会パンフレット）

1 挨拶、委員長・副委員長選出 乾委員欠席

- 挨拶、委員・事務局メンバーの紹介、要綱や今年度の会議実施予定の確認
- 委員長として岩井委員を、副委員長として青合委員を選出

2 木の文化を具体化する取組の進ちょく状況について

- 事務局から資料1、参考資料－1、2に基づいて説明
 - ・木の文化を具体化する推進会議の設置目的やこれまでの取組について
 - ・地域産材ストック情報システムについて
 - ・京都市公共建築物等における木材利用基本方針の策定について
 - ・平成24年度の「みやこ柾木」の需要拡大に関する取組について
 - ・平成25年度の「みやこ柾木」の需要拡大に関する取組について
- 主な質疑応答及び意見
 - ・みやこ柾木の流通量や市内の素材生産量はどれくらいか？また、みやこ柾木の制度ができたのはいつ頃で、その注文件数はどれくらいか？
→みやこ柾木の流通量は、原木換算値で3,528m³、出荷実績1,789m³（うち、認証された量は330m³）で、市内の素材生産量は約35,000m³である。また制度ができたのは平成19年である。注文件数については、リフォーム等に補助する事業については年間約20件で推移し、公共建築物については、年約50m³で推移している。
 - ・ストックシステムについて、アクセス数の把握は？
→アクセス件数については、把握していないが、確実にみやこ柾木に興味を持っている方は増えており、みやこ柾木を入手したいがどこで手に入るのかという相談に対し、HPを紹介させてもらっている。

- ・ペレット燃料の値段は、現在の灯油価格とどれくらい差があるのか？価格差をはっきりと明示できるのであれば、明示した方が、ペレット普及につながるのではないか？
→ペレットと灯油では、熱量で比較すると価格は同じくらいである。ただペレットは灰の処理などがあり、維持管理にコストがかかるので、ペレットの値段がもう少し安くならないと普及は難しいと考えている。

2 本市の森林の現状と課題について

- 事務局から資料3、参考資料－3に基づいて説明
- 主な質疑応答及び意見
- ・京都市の森林の経済評価を金額に換算するとどれくらいか？また、それに対し、京都市の林業予算はいくらくらいなのか？京都には、平安時代から林業が栄えてきたのに、北山の資料館が閉鎖されるなどして、林業を学ぼうとしても、森林文化を伝える発信基地がないように感じている。北山以外にも、雲ヶ畑や花背にも林業を守っている人がいるが、そういう人たちがなかなか表に出てこないと思う。
→経済価値については ha 当たり約 200 万円台という数字を国が試算しており、京都市の面積をかけると、市の林業関係の予算 5 億円より非常に高い額となる。北山スギについては、北山スギの里総合センターを整備した。山村都市交流の森も山を見てもらうという意味で資料館の要素を持っている。
- ・今日は山側の議論という事であるが、林業振興しようとすれば、需要拡大が大事である。
- ・山の果たしている効果が、市民に理解されていない。PR すべきである。
- ・市民に理解されない限り、予算もついてこない。今回の嵐山の水害についても、山の整備の議論につながっていない。どこのメディアも堤防を高くすればすんだとか、日吉ダムの調査が悪かったとかそっちの方の議論に行ってしまっている。山の大切さについて、一般市民に啓蒙できるような場所が欲しい。
- ・組合の作業班には、地元の者が少ない。間伐も大事だが、皆伐して植林することの方が大事。60 年たったら皆伐して、植林する循環をさせることが大事。
- ・今の日本の林業では、金銭的にそんな体力がない。皆伐すると植林せずに、得た利益をみな持ち逃げしてしまうだろう。皆伐して得た利益は全て吐き出さないと、次に再生していかない。
- ・財源の確保が大事。そのためには、市民に山の大切さを訴えることが大事である。京都市には三山があり、そういう文化的な切り口から予算立てするのも方法である。全国的には多くの都道府県で森林環境税が導入されている。里山をきちんと整備していくことで、関心を高める効果がある。兵庫県では、住民に身近な六甲山を整備しているが、「見える化」が大事だと思う。戦後植えた森林の整備は大事であり、間伐は必要。国は、出材する間伐に補助の重点を置いているが、切捨ての間伐にも補助が必要。山は急峻なので、林道や作業道の開設には限界がある。もう一度架線集材を検討することも大事なのではない

か？

- ・先日の台風の嵐山を見てみても、川と山が一体という思いがある。今回の災害はかなりショッキングだったが、山をアピールするタイミングだと思う。橋の欄干に北山スギや間伐材を使用するようにこれまでも言い続けてきたが、なかなか進まない。鴨川の橋の欄干を間伐材にするとか、橋の下に山の大切さなどを啓発するギャラリーを設置することも大事だと思う。
 - ・文化とかアートは、市民の方も関心が高いと思うので、歴史とか文化とか新しい視点で普及啓発していけばいいのでは？課題は山ほどあるが、その解決のために、頑張っている人や団体もあると思うので、そういう人たちに光が当たるように、会議が進んでいったらいいと思う。都市部に北山スギ資料館のような施設があることも大事である。
 - ・花脊に住んでいるが、これまで山の大切について訴えてきた。桂川の原点が花脊である。これまでも市の会議で災害を止めるためには、山を整備しないといけないと言ってきた。嵐山の水害が起きた今、林業は災害を止める大きな拠点だということを市民に知ってもらうチャンスだと思う。
 - ・見える化については、二条城の前の歩道の柵は間伐材を用いているが、市民は知らない。間伐材を使用する効用も含めて、もっと市民に知らしめることが大事だと思う。
 - ・国宝を取り扱ったテレビ番組を作成しているが、国宝というものは市民も親しみやすい。京都はたくさん国宝があるので、国宝という切り口で山を持っていく事も大事だと思う。文化財行政と絡めていくことも方法だと思う。文化財の修繕に使う木を育てる山を京都市が指定して、この木が京都市の文化財を補修するのに使われるということをアピールするのも一つ方法だ。
 - ・京都の伝統行事である花脊の松あげをレポートしてみた。松あげも山や木と密接につながっている。観光行事や文化財という面からも、山を盛り上げていってほしい。
 - ・木をアピールすることは大事。子供に木に関して、どういう教育をしているのか教えて欲しい。
- いろいろ励ましのご意見をいただいた。確かに山をアピールするチャンスである。京都市の施策については、次回にご紹介したいと思う。文化面でも、木の文化ということも生かしていくべきと考えている。教育関係については、出前トークという制度などもあり学校に出向いて話をする機会を設けている。また、学校の机や椅子などの整備に合わせて、山の整備の大切さを話したりしている。
- ・子供に、自分で使ったヒノキの机の天板を磨いてもらうという取組をしているが、継続が大事である。
 - ・国有林と学校で、遊々の森の契約を結んで衣笠の国有林で環境教育に取り組んでいる。
 - ・花脊山の家で炭焼き体験なども実施している。花脊山の家は、教育委員会の主導で、全市の5年生の長期宿泊を受け入れており、そのうちの1泊は花脊交流の森に一泊して、地元の山に携わった人と交流する場を設けたりしている。

- ・木材の需要拡大が必要。会議は年 2 回だが、もっといろいろやっていかなくてはならない。
- ・北海道の下川町は、保育所から高校まで各学年が、1 年に 1 回森林・林業体験をしている。下川町の子供たちの山に対する意識は高いと聞いた。地元にある産業を子供たちが知るということは、大切である。
- ・そろそろまとめに入りたい。今日の意見を集約すると、森の価値を市民にもっとアピールすることが大事で、それから事が始まるということだったと思う。そのことが、今日市が示した課題に直結することであり、これからも継続して議論していくかなくてはならない。そこで提案であるが、次回は京都市として今日出た意見をまとめて、行政としてできることを整理して委員に提案して欲しい。それを材料として次回の議論にしていきたい。

(事務局)

次回は、1 月～2 月に開催したい。改めて事務局から日程調整させてもらう。来年の 1 月 18 日に京都市と京都伝統文化の森推進協議会が主催の公開シンポジウム「東山の森の歴史を学ぶ」を開催する。本会議も関わっていこうと考えているので皆様もご都合がついたら是非参加していただければと考えている。以上で本日の会議は終了とさせていただく。

新規!

あなたも京都の森を守るリーダーになろう!!

京の森づくり リーダー養成講座

全回受講でリーダー認定が受けられる!

定員 30名程度

会費1回 500円

京都の森では「マツ枯れ」や「ナラ枯れ」といった森の伝染病が蔓延したり、シカが増えすぎたりと森の様子が大きく変化してきています。この大きな要因は、「人が森にかかわらなくなっこ」と。京都の森を良くしていくためには、人が森に関わっていくことが大切です。

そこで、これから人が森に関わる活動を拡げて行くためには、京都の森林に関する基礎的な知識をもち、それを現場で人に伝えることのできるリーダーが必要です。そのリーダーの育成を行うための養成講座を開講します。

第1回

「樹木の見方・森の場の見方(1)」

日時:2013年10月3日(木) 18:30~20:30

〈講師〉
NPO法人森林再生支援センター
常務理事 高田 研一 氏

第2回

現場 「樹木と森の観察会」

日時:2013年10月12日(土) 13:30~15:30

〈講師〉
京都府立大学 客員教授
京都府立植物園 名誉園長
松谷 茂 氏

第3回

「樹木の見方・森の場の見方(2)」

日時:2013年10月24日(木) 18:30~20:30

〈講師〉
NPO法人森林再生支援センター
常務理事 高田 研一 氏

第4回

現場 「人工林・自然林」

日時:2013年11月10日(日) 13:30~15:30

〈講師〉
NPO法人森林再生支援センター
常務理事 高田 研一 氏

第5回

現場 「森での安全」

日時:2013年11月23日(土・祝) 13:30~15:30

〈講師〉
株式会社高石造園土木
常務取締役 松本 茂 氏

第6回

現場 「森の手入れ」

日時:2013年12月15日(日) 13:30~15:30

〈講師〉
株式会社高石造園土木
常務取締役 松本 茂 氏

第7回

「人と森との関わり」

日時:2014年1月23日(木) 18:30~20:30

〈講師〉
NPO法人森林再生支援センター
常務理事 高田 研一 氏

第8回

「森の美しさ」

日時:2014年2月13日(木) 18:30~20:30

〈講師〉
ウズプランニング
武田 純 氏

第9回

現場 「森を育てる」

日時:2014年3月15日(土) 13:30~15:30

〈講師〉
NPO法人森林再生支援センター
常務理事 高田 研一 氏

会場: 講義 職員会館かもがわ 現場 高台寺山国有林又は鹿ヶ谷 等

お申込み・お問い合わせ先

FAX又はE-mailで、氏名、電話番号、FAX又はE-mail、お申込み回をご記入のうえ、(公財)京都市森林文化協会までお申し込みください。お申込みは各開催日の前日まで。1回のみのご参加も受け付けています。先着順。

※ 参加申込みをいただきました方には、追って「受付通知」を送付いたします。直前になりますと送付が間に合わないことがありますので、できるだけ3日前までにお申し込みください。

(公財)京都市森林文化協会<山村都市交流の森>

〒601-1103 京都市左京区花脊八幡町250 TEL (075)746-0439 FAX (075)746-0134

E-mail hanase-k@mbox.kyoto-inet.or.jp

HP: [山村都市交流の森](#) で検索

会場への交通のご案内

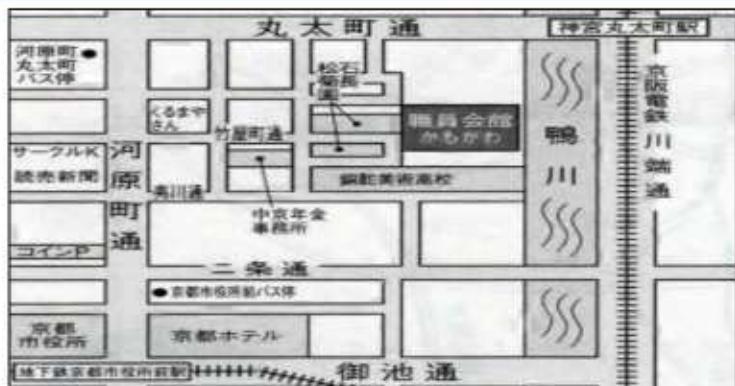
【講義】職員会館かもがわ

京都市中京区土手町通夷川上る末丸町284

<アクセス>

- ・京都市役所から徒歩約10分
- ・市バス「河原町丸太町」から徒歩約5分
- ・京阪電鉄「神宮丸太町駅」から徒歩約5分

※ 駐車場はございませんのでお車での来館は御遠慮ください。



【現場】高台寺山国有林 又は 左京区鹿ヶ谷 等 (お申込みいただいた方に集合場所をお知らせいたします。)

FAX : 075-746-0134

(公財)京都市森林文化協会 宛

FAX お申込み用紙

ふりがな お名前	
電話番号	
FAX	
E-mail	
お申込み回	<input type="checkbox"/> 単発受講() <input type="checkbox"/> 連続受講(全9回)

※ お申込みいただきました個人情報は、本講座に限って使用させていただきます。

主催:京都市、公益財団法人京都市森林文化協会

後援:京都伝統文化の森推進協議会

秋期講座

人と森とのかかわり方を考える

京都の森 教養講座

最近、京都の森では、「マツ枯れ」や「ナラ枯れ」という森の伝染病が蔓延したり、シカが増えすぎたりと森の様子が大きく変わってきています。この大きな原因の一つは「人が森にかかわらなくなってしまったこと」。これから人は森や自然とどのようにかかわっていけば良いのか、この講座を通して考えていきます。

第1回 テーマ「心」

2013年10月16日（水）
13:30～15:30

「森と山」

場所：キャンパスプラザ京都
4F 第3講義室

定員：100名

会費：1,000円

宗教学者
山折 哲雄 氏



第2回 テーマ「かかわり」

2013年10月30日（水）
13:30～15:30

「人間の都合と自然の都合」

場所：キャンバスプラザ京都
4F 第3講義室

定員：100名

会費：1,000円

株植藤造園 会長
佐野 藤右衛門氏



第3回 テーマ「視(み)る」

2013年11月14日（木）
13:30～15:30

「森を外から内から 眺めると」

場所：キャンバスプラザ京都
4F 第3講義室

定員：100名

会費：1,000円

京都府立大学 客員教授
京都府立植物園 名譽園長
松谷 茂 氏



第4回 テーマ「知る」

2013年11月27日（水）
13:30～15:30

「樹木の生を読み解く」

場所：キャンバスプラザ京都
4F 第3講義室

定員：100名

会費：1,000円

森林再生支援センター 常務理事
高田 研一 氏



お申込み・お問い合わせ先

FAX又はE-mailで、開催日、氏名、電話番号、FAX又はE-mailをご記入のうえ、(公財)京都市森林文化協会までお申し込みください。お申込みは各開催日の前日まで。**1回のみのご参加も受け付けています。先着順。**

(公財)京都市森林文化協会<山村都市交流の森>

〒601-1103 京都市左京区花脊八幡町250 TEL (075)746-0439 FAX (075)746-0134

E-mail hanase-k@mbox.kyoto-inet.or.jp HP: [山村都市交流の森](#)で検索

主催：京都市、公益財団法人京都市森林文化協会 後援：京都伝統文化の森推進協議会

FAX: 075-746-0134

(公財)京都市森林文化協会 宛

FAX お申込み用紙

<締切>
各開催日
前日まで

申込日	※御希望の回に○をつけてください。 第1回・第2回・第3回・第4回・全回
ふりがな お名前	
電話番号	
FAX	
E-mail	

■ 参加申込み方法

参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。参加申込みをいただきました方には、追って「受付通知」を送付いたします。直前になりますと送付が間に合わないことがありますので、**できるだけ3日前までにお申し込みください。**

① FAX

上記のFAXお申込み用紙に必要事項をご記入の上、
FAX:(075)746-0134まで送信してください。

② E-mail

hanase-k@mbox.kyoto-inet.or.jp

まで、氏名、電話番号をご記入の上、送信してください。

※ お申込みいただきました個人情報は本講座に限って使用させていただきます。

※ 定員になり次第、受付を終了させていただきます。

■ 交通のご案内



・JR・近鉄・地下鉄「京都駅」下車。京都駅ビル北側の通りを西へ。徒歩約5分。

● 公共の交通機関をご利用ください。

冬期講座

人と森とのかかわり方を考える

<冬期特典>
同伴者4名まで無料!

京都の森 教養講座

最近、京都の森では、「マツ枯れ」や「ナラ枯れ」という森の伝染病が蔓延したり、シカが増えすぎたりと森の様子が大きく変わってきています。この大きな原因の一つは「人が森にかかわらなくなってしまったこと」。これから人は森や自然とどのようにかかわっていけば良いのか、この講座を通して考えてていきます。

第1回

2014年 1月15日(水)
13:30~15:30

「森と砂漠」

宗教学者

山折 哲雄 氏



＜山折 哲雄(やまおりてつお)氏 プロフィール＞
宗教学と民俗学が専門。1931年、サンフランシスコ生まれ。民間企業を経て、国立歴史民俗博物館教授、国際日本文化研究センター教授、京都造形藝術大学大学院長等を歴任後、2005年国際日本文化研究センター所長を就任。2007年から京都伝統文化の森推進協議会の会長を務める。

第2回

2014年 2月5日(水)
13:30~15:30

「眠る森」

株植藤造園 会長

佐野 藤右衛門氏



＜佐野 藤右衛門(さの とうえもん)氏 プロフィール＞
1928年、京都市生まれ。代々、藤右衛門を襲名し、当代で18代目。14代目から全国の桜を調査、3代にわたる成果を「さくら大綱」「京の桜」(いずれも紫紅社刊)にまとめる。京都の円山公園の桜、蹴上インクライン、ドイツ・ロストックの桜など、国内外の桜を育てている。

第3回

2014年 2月19日(水)
13:30~15:30

「樹木の死を考える」

森林再生支援センター 常務理事
高田 研一 氏



＜高田 研一(たかだ けんいち)氏 プロフィール＞
NPO法人 森林再生支援センター常務理事。1950年、京都市生まれ。山腹斜面の表層崩壊発生危険性の予測、地域性苗木生産供給体制の提案、シカ食害下における森林生態系の研究、法面緑化の考え方・手法の提案、造林、土木にも適用できる自然配植の理論化等を行っている。

第4回

2014年 3月5日(水)
13:30~15:30

「森に生きる樹の不思議」

京都府立大学 客員教授
京都府立植物園 名誉園長

松谷 茂 氏



＜松谷 茂(まつたにしげる)氏 プロフィール＞
京都府立大学 客員教授、京都府立植物園 名誉園長。1950年、京都市生まれ。1995年から京都府立植物園に勤務し、2008年に京都府立植物園園長となる。この間、植物園の入園者数を飛躍的に増加させ、2008年度には10年振りに370万人を突破。総合植物園、4年連続日本一に輝く。

場所

京都教育文化センター (川端丸太町から北東へ300m)

定員 100名／各回

受講料

1,000円／1人1回 (ただし、1人につき同伴者4名まで無料。※申込み・受付はグループで。)

お申込み・お問い合わせ先

FAX又はE-mailで、開催日、氏名、電話番号、FAX又はE-mailをご記入のうえ、(公財)京都市森林文化協会までお申し込みください。お申込みは各開催日の前日まで。1回のみのご参加も受け付けています。先着順。

(公財)京都市森林文化協会<山村都市交流の森>

〒601-1103 京都市左京区花脊八幡町250 TEL (075)746-0439 FAX (075)746-0134

E-mail hanase-k@mbox.kyoto-inet.or.jp HP: [山村都市交流の森](#)で検索

主催：京都市、公益財団法人京都市森林文化協会 後援：京都伝統文化の森推進協議会

FAX: 075-746-0134

＜締切＞
各開催日
前日まで

(公財)京都市森林文化協会 宛 [教養冬期講座] FAX お申込み用紙

申込回	※御希望の回に○をつけてください。 第1回・第2回・第3回・第4回・全回
お名前	<代表者名>
	<同伴者名①>
	<同伴者名②>
	<同伴者名③>
	<同伴者名④>
代表者電話番号	
代表者FAX又はE-mail	

■ 参加申込み方法

参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。参加申込みをいただきました方には、追って「受付通知」を送付いたします。直前になりますと送付が間に合わないことがありますので、できるだけ3日前までにお申し込みください。

① FAX

上記のFAXお申込み用紙に必要事項をご記入の上、
FAX:(075)746-0134まで送信してください。

② E-mail

hanase-k@mbox.kyoto-inet.or.jp

まで、氏名、電話番号をご記入の上、送信してください。

※お申込みいただきました個人情報は本講座に限って使用させていただきます。

※定員になり次第、受付を終了させていただきます。

■ 交通のご案内



- ・京阪電車「神宮丸太町」下車。5番出口を東へ。徒歩約5分。
- ・京都市バス201・31・203・206系統で「熊野神社前」下車。徒歩約10分。
- ・京都市バス202・204・65・93系統で「丸太町京阪前」下車。徒歩約10分。

- 駐車場はございませんので、近隣の駐車場か公共の交通機関をご利用ください。

用を目指す地主や事業所と太陽光パネルの設置業者を仲介する京都府の「チ・ソーラー用地バンク」登録制が決まった。同制度は、来春の稼働を目指す。

が6割超

望は21%にとどまり、「京都内への永住を希望」する人が33%で上回った。

京都府への避難者は31日現在で966人。府災害支援対策本部は「府のあせん住宅以外の転居状況は不明で、今回の数字で避難者が全体の傾向はつかみきれない」とするが、ボランティアや避難者支援に詳しい桜井政立命館大准教授（福祉社会学）は「避難者は、故郷の放射線量が高いといつた立場で元のコミュニティーに快く迎えられるか心配という声が根強い。政府は『避難者の権利』を保障してこなかった政策を見直す必要がある」と指摘す

る。

内避
は
があ
が取
れに
が別
うて
医が
た19
ふ島
が、
は、
希

新たな定住先模索か

京都新聞 25.11.1 解説

のほかにも、遊休地を持つ府民や屋上の活用法を考えている企業などから約20物件の登録があり、太陽光パネル設置する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。

京都府の店舗屋上に設置する一般家庭20戸分の消費電力に相当する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。

京都府と府社会福祉協議会、府共同募金会などが31日、府社会福祉大会を京都市南区の京都テルサで開いた。

京都府の店舗屋上の太陽光発電への出資に関する問い合わせは、市民エネルギー京都市南区の分野で功績がある協力を呼び掛けた。各部門の代表者が

京都府と府社会福祉協議会役員ら社会福祉大会を開いた。山田知事は「家体を表彰した。

京都府の店舗屋上の太陽光発電への出資に関する問い合わせは、市民エネルギー京都市南区の分野で功績がある協力を呼び掛けた。各部門の代表者が

京都府と府社会福祉協議会役員ら社会福祉大会を開いた。山田知事は「家体を表彰した。

京都府の店舗屋上の太陽光発電への出資に関する問い合わせは、市民エネルギー京都市南区の分野で功績がある協力を呼び掛けた。各部門の代表者が

「森林整備で防災」必要

林業振興検討
京都市の会議

水害受け意見相次ぐ

市内で水害が増えてい

ることを踏まえ「森林

風18号で桂川の氾濫が

ありがとう! 大感謝企画
・日ウナリ

林行政の役割が大変大きい」と訴えた。

他の委員からも「台風18号で桂川の氾濫が

年に知られたこの機会に、林業が災害を止めるとなると市民に発信すべきだ」との意見が出た。

学校で森林の重要性を教える取り組みや、社寺と連携して観光政策の一環で森林づくりを進める必要性なども話し合った。

これまで市内産木材の利用拡大策を議論し、てきたが、今回から森づくりの議論をスター

た。荒れた山からの土壌流出に伴う水位上昇が荒れていることも一つでは」と問題提起し

ことし3月までの1年間に決算期を迎えた。7月までに税務申告し29.0%で統一した。

法人約44万のうち、愚子の割合は28.3%で2年連続増。申告所得額は6兆6311億円だった。

国税局は「1件当たりの所得も上昇してお

り、業績が改善しているのではないか」とし

ては、京都のまちを洪水から守るためにも市の森

申告漏れがあったのは72%に当たる約1万3千で、1906億円と5.8%減ったが、このうち悪質な仮装隠

蔽(いんぺい)を伴う所得隠しの額が増えたため、追徴税額も14.2%上回る425億円となつた。

所得隠しをした法人の割合が最も高かった業種はパチンコ(36.8%)で、16年連続ワースト。廃棄物処理が

日本温泉を身近にする
湯快リゾート
グループホテル

のほかにも、遊休地を持つ府民や屋上の活用法を考えている企業などから約20物件の登録

京都府の店舗屋上に設置する一般家庭20戸分の消費電力に相当する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。

京都府と府社会福祉協議会役員ら社会福祉大会を開いた。山田知事は「家体を表彰した。

京都府の店舗屋上に設置する一般家庭20戸分の消費電力に相当する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。

京都府と府社会福祉協議会役員ら社会福祉大会を開いた。山田知事は「家体を表彰した。

京都府の店舗屋上に設置する一般家庭20戸分の消費電力に相当する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。

京都府の店舗屋上に設置する一般家庭20戸分の消費電力に相当する年間8万4千時間の発電が可能な太陽光パネルを設置する。